

大規模な全農倉庫が三川町に倉庫跡地の活用どうする

昨年の11月初め、「全農直営の大規模な米倉庫が三川町に建設されることがほぼ決まった」とある方から加藤鉦一議員に知らされました。

加藤議員がJA庄内たがわに聞いたところ、全農の倉庫事業再編でその計画があること、現在の老朽化した農協の米倉庫は廃止され、全農倉庫に集約される、とのことでした。藤島駅前には米倉庫

（全農とJA庄内たがわ）14棟があり、酒田の山居倉庫よりも規模が大きく、農業中心地の藤島を象徴する存在です。

建物面積7300㎡、土地面積2万㎡があり、これが廃止され、駅前が広大な更地となったら、庄内農高の統廃合問題も控えており、藤島地域存続の危機です。「民報藤島」編集長の「新春初夢」をここに掲載し、読者の皆さんからご意見を頂ければ幸いです。

鶴岡駅は無料の駐車場がなく、北側の都市計画緑地「虹の広場緑地」の狭い駐輪場だけで、特急いなほの機能性向上には対応できません。

その駅北緑地は、12月27日の都市計画審議会で、ルネサス東工場を引き継いだTDKの社員向け駐車場に整備することを承認し、駅利用者のスペースがますます狭まります。

多くの県道 結節点

庄内空港の利用者数が多いのは、無料で長期に車を駐車できるからです。

庄内交通の夜行バスの利用者数が増えているのも、庄内観光物産館に駐車できるからです。

「初夢」は、広大な米倉庫跡地を駐車場にして、JR藤島駅を「特急いなほ」の停車駅にすることです。「特急いなほ」は、今年4月に新潟駅で同一ホーム乗り換えが供用開始されます。

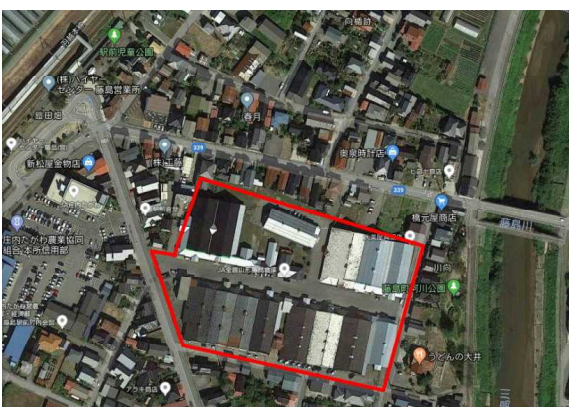
特急いなほの機能性は飛躍的に高まり、観光客や交流人口の拡大が進みます。ところが、JR

藤島地域はかつて旧東田川郡役所があり、多くの県道が繋がる結節点の位置にあることから、出羽三山や櫛引の黒川能への観光、新庄・最上との連絡など、JR鶴岡駅より利便性が高いと言えます。JR藤島駅が特急いなほの停車駅になれば、再び藤島が東田川の中心地になるのも夢ではないかも知れません。

藤島駅前の全農倉庫群（Googleマップ）



全農山形藤島倉庫



東郡電気事業ものがたり

東田川郡電気事業の偉大なる軌跡
早坂清輔（上町）

東郡電気事業に育まれた育英事業②

開墾事業

現在は平成17年（2005）の平成大合併により、鶴岡市の旧町村を対象とした育英事業、旧羽黒町は財団法人羽黒育英会として脈々と引き継がれている。

戦後、町村組合が育英事業の他に取り組んだ事業に開墾事業がある。



平成17年の合併時には貸付金3648万9500円（貸費生26人）、なお東田川郡町村組合は合併時に解散した。

（当時の東田川郡町村組合長・佐藤仁左エ門・山添村長）

育英資金は現在、鶴岡市教育委員会（櫛引庁舎）で管理している。平成28年3月現在の資産総額は3億5158万円で、うち貸付金は1億1000万円（貸費生44名）となっている（藤島、櫛引、朝日、温海、羽黒は除く）。

終戦後の昭和21年（1946）、緊迫した食糧事情の緩和と失業者救済を図る目的から、東栄村添川地内（渡戸沢）官有地50町歩を借地した。

郡制時代から電気事業などに育まれた育英事業は、幾多の変遷を重ねながらも、明治31年（1898）事業開始以来、今年で120年となり、1世紀以上の歴史である。

3カ年計画で田畑30町歩を開墾し、20町歩は建物敷地、放牧場・果樹園などを整備する計画で、大平農場と呼んだ。

日本育英会の前身である大日本育英会発足の昭和18年（1943）より45年も前に、郡制として育英事業を発足させた先人の偉業は、長岡藩の「米百俵」の精神に通じる。

農場管理技術指導は、元庄内農学校校長の加藤元助氏を任命し、これに当たったのである。



※米百俵：「百俵の米も、食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」（長岡藩の藩士・小林虎二郎）

（加藤元助・庄内農学校第1回卒業生・卒業生で初めて校長に昭和18年4月就任、21年7月依願退職）

入植者を東田川郡内から募集し、20戸の開拓部落づくりであったが16名が入植した。開墾作業は困難を極めた。（つづく）

